

Cバス運賃値上げ中止を コミバスを良くする会が議会請願

来年4月からCバス運賃を値上げしようとする市に対して、「鈴鹿市民のコミバスをよくする会」（辻井良和代表）が「来年度値上げは中止し、対象地域と市民の意見を十分に聞いて再検討を行なうこと」を求めて、12月7日市議会に請願を提出しました。請願文書では、値上げの理由や決定方法についての問題点をあげ、「値上げありき」の姿勢を改めるよう求めています。

地域や住民の声を大事にしながらスタートし、市と事業者と地域が協力しながら長年運行してきた経過を無視して、地域や住民の意見をきくこともなしに、一方的に値上げを決定してもよいのか。

県の補助金がカットされた、コストが上がってきた、などの財政的な理由だけで、責任のない利用者に負担を転嫁してもよいのか。

他に交通手段をもたない、最も弱い立場の市民にランニングコストの40%、50%もの負担を求めることは、行政として妥当なことなのか。

もともと民間事業者が不採算路線として撤退した地域を、市がコミュニティバスとして運行している経過からして、営業路線と比較して値上げするという考え方はなじまないのではないのか。

県内他自治体のコミュニティバスの運賃と比べても、高齢者割引や割引定期券のないCバス運賃は特に低いとは言えず、値上げの必要性はないのではないのか。

市が値上げの根拠としている「乗客アンケート」は、ある日の利用者だけに「廃止か、値上げか」と設問を出し、苦渋の回答を「賛成80%」としたもので、市民の声を正しく反映したものとは言えないのではないのか。



2002年に発売されたCバスの「チョロQ」

C バス運賃値上げは、まだ正式決定されていない

運賃値上げ中止を求める請願の審査は、12月10日の産業建設委員会で行われました。私が紹介議員として、趣旨説明を行なったあと、委員から担当課への質疑や委員間の議論が活発に行われました。「中止」ということに引っかかるとの意見、市税の投入が増えているので値上げもやむを得ないとの意見が多くあり、採決では賛成がなく「不採択」となりました。

しかし、多くの委員から「高齢者対策、通学定期などを検討しないと、市民の納得は得られない」などの意見があり、また地域や住民の声を聞いていないことへの批判も出ました。「継続審査」にとの提案もありましたが、賛成少数で否決。あとは22日の本会議での採決が最終結論となります。

もう値上げは決まったとの前提で「中止」はできない、というムードの委員会でしたが、実はまだ手続き的にも決まってはいません。市の「公共交通会議」に値上げ案が提案されたのが10月13日、決定されたのは11月10日、それから三重交通から中部運輸局に値上げ申請し、認可が下りてはじめて、正式決定になるのですが、認可申請は年明けからとのことで、今は「内定」の段階です。したがって手続きをストップして、地域や住民の声を聞くことはこれからでも十分に可能です。本会議では、このような点も含めて「値上げありき」で突っ走る手法の間違いを、しっかりいただきたいと思います。

抽象的な目標の多い「市総合計画」

末松市長が今後8年間の市政の方向を定める「鈴鹿市総合計画2023」が、12月議会の重要議案として出されていて、議決される見通しです。共産党市議団としても、意見は言いつつも賛成との態度でのぞんでいます。

この総合計画案で気になる点は、めざすべき「成果指標」を数字であげていることです。具体的な数字、例えば「健康寿命・男性79.6才、女性81.5才」に引き上げようとの目標は分かりやすいし、そのために何をすべきかという施策も具体的になります。しかし一方で、「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合・90%」と言われても、今どこに住んでいるのか、どこと比べて考えるのか、各個人の感想を数字でまとめても、それが何なのか？「学校が楽しいと答えた児童生徒の割合・90%」というの、勉強ができることか、給食がおいしいのか、友達や先生がいるからか、様々です。こういう主観が入った数値を目標にして、政策を立てるのは難しいと思います。

秋晴れの木曾路と下伊那を訪ねる

後援会バス旅行、馬籠宿・満蒙開拓平和記念館へ

11月29日、恒例の後援会バス旅行は晩秋の中山道・馬籠宿と、長野県阿智村・満蒙開拓平和記念館を訪ねました。

記念館では開拓団についてのビデオを見て、ガイドさんの説明を聞きながら館内を回りました。満州開拓に渡った農民は25万人、敗戦からの逃避行で亡くなった人は8万人。「開拓」と言っても、現地にいた中国の



記念館内の展示の説明を聞く



馬籠宿の街道を歩く

農民から家も畑も取り上げて日本人移民のものにしたので、これは「侵略」行為そのものでした。開拓民は、被害者であり、また加害者でもあったのです。

歴史の勉強もして、馬籠宿の散策、お菓子の城でのショッピングなど、中身の濃い一日でした。

今年もサーキット1周マラソン完走！

12月13日、第18回鈴鹿シティマラソン大会に出場、鈴鹿サーキットのコース1周5.6キロを完走しました。今年は我々夫婦と娘、中1の孫がエントリー、孫は陸上部で長距離に励んでいます。



第2回 鈴鹿シティマラソン大会

私の初出場は、1998年の第2回大会、45才のとき（左写真）で、

以来とびとびですが走り続けています。といっても「参加する」だけで、記録とは無関係ですが。今回のタイムは、目標の40分を切って39分28秒。17年前とほぼ同じでした。市役所13階までエレベーター使わずに歩いて上がるトレーニングの効果も、少々はあったようです。



ずいそう



フクシマに花は咲けども

東日本大震災の被災地と被災者への応援ソングとして、2012年に「花は咲く」が発表され、NHKで毎日流されてきた。いまや国民だれもが知っている歌となり、各地のコンサートの中でも歌われている。

いい歌だし、この歌によって東北の人たちが元気になればと共感をしたのだが、このごろは何か「違和感」を感じるようになっていた。それは、4年を過ぎてもなかなか復興が進んでいかないことと、福島第一原発の事故が収束しないこと、それどころか再び各地の原発の「再稼働」の動きが強まっていることによる。花が咲く故郷に、ふたたび帰れるあてもなく異郷に身を置く多くの人々。この現実と、「花は咲く」の歌詞とのギャップ。

花が咲けばいいのか？と問う「影法師」の歌

11月の末、テレビで「NNNドキュメント・花は咲けども故郷は」という番組が放映された。山形県の長井市で百姓をしながら、地方に根ざしたフォークソングを40年歌い続けている「影法師」というバンドが、フクシマに思いを寄せた「花は咲けども」という歌を作って、広めていると紹介していた。さっそくCDを送ってもらって聞いた。

- 1 原子の灰が 降った町にも 変わらぬように 春は訪れ
もぬけの殻の 寂しい町で それでも草木は 花を咲かせる
*花は咲けども 花は咲けども 春をよるこぶ 人はなし
毒を吐きだす 土の上 うらめし、くやしと 花は散る
- 2 異郷に追われた 人のことなど 知ったことかと 浮かれる東京
己の電気が 招いた悲惨に 痛めぬ胸さえ 持ち合わせぬか
- 3 1年、3年、5年、10年 消えない毒に 人は戻れず
ふるさとの花 恋焦がれて 異郷で果てる 日を待つのか

震災も原発事故もなかったかのように振る舞う政府、財界、政治家に、そして、わずか4年前のことをつい忘れそうになる国民に、正面から東北人の思いをぶつけたこの歌が、日本中に広まってほしい。